

◆ジッリオ エマヌエーレ ダヴィデ「宗教における『自民族中心主義』と『脱民族中心主義』～世界宗教の条件について～」

#### 注釈

第1段落：「キリスト教思想と仏教思想」、「キリスト教的な信仰と仏教的な信仰」を両方とも自分の今の思想と精神性の大事な一部」については下記をご参照ください。

- 『SGRA かわらばん』「エッセイ691：エマヌエーレ・ダヴィデ・ジッリオ「私の宗教と信仰：「～でもある」という在り方について」」

<https://www.aisf.or.jp/sgra/combination/sgra/2021/17208/>

第5段落：「自民族中心主義の他の定義」については下記をご参照ください。

- 「『私たちのやり方が一番よい・正しい』と信じ、全ての物事を自分の基準で判断・評価する心理的状态」 M.J. Bennett, “Towards Ethnorelativism: A Developmental Model of Intercultural Sensitivity,” in R.M. Paige, Education for the Intercultural Experiences, pp.21-71, Yarmouth, Intercultural Press, 1993.
- 「新しい情報は、すでに知っている情報との関連でしか認識・理解できないという、人間の特徴」 J.A. Mestenhauer, Learning with foreign students, Minneapolis, North Central Publishing Company, 1976.

第14段落：「社会進化論」またの名は「社会ダーウィニズム」

「自然淘汰」と「適者生存」の時と同様、人間たちの世界と社会の進化の時も、最も強い種類（＝例えば「西洋人」）しか生き延びれないとする思想；この思想は、植民地時代から第二次世界大戦の時まで、植民地主義と極右派への参加の思想的基盤にもなった。

第15段落：「仏教はインドで生まれた、と。元々インドヨーロッパ語族の人たちの宗教だ」については下記をご参照ください。

- Donald S. Lopez Jr., Curators of the Buddha: The Study of Buddhism under Colonialism, The University of Chicago Press, 1995.

第17段落：前のローマ法王ベネディクト 16 世「東洋や、キリスト教以外の偉大な宗教に由来する本物の瞑想法の実践は、混乱している現代人にとって魅力的であり、祈る人が外的なストレスの中にあっても、内的な平安をもって神の前に立つことを助ける適切な手段となりうる」については下記をご参照ください。

- Joseph Card. Ratzinger, Letter to the Bishops of the Catholic Church on Some Aspects of Christian Meditation (28), Congregation for the Doctrine of the Faith, Rome, October 15, 1989 (ヨゼフ・ラッツィンガー枢機卿による『キリスト教の黙想のいくつかの側面に関する、カトリック教会の司教たちへの書簡』(28)、教義修道会、1989年10月15日、ローマ)。

第 19 段落：「これは最初から靈的な次元で決まっているはずで、使徒たちの言葉にも現れている。異邦人（外国人）とそうでない者とか、奴隷とそうでない者たちとか、もうそのような区別など存在しない、と」については下記をご参照ください。

- 『新約聖書』「コリントの信徒への手紙一」12 章 13 節：「私たちは皆、ユダヤ人もギリシア人も、奴隷も自由人も、一つの靈によって一つの体となるために洗礼(バプテスマ)を受け、皆一つの靈を飲ませてもらったからです。」；「ガラテヤの信徒への手紙」3 章 28 節：「ユダヤ人もギリシア人もありません。奴隷も自由人もありません。男と女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからです。」；「エフェソの信徒への手紙」6 章 8 節：「あなたがたが知っているとおりに、奴隷であっても自由人であっても、善いことを行えば、誰でも主から報いを受けるのです。」；「コロサイの信徒への手紙」3 章 11 節：「そこには、もはやギリシア人とユダヤ人、割礼のある者とない者、未開の人、スキタイ人、奴隷、自由人の違いはありません。キリストがすべてであり、すべてのものの内におられるのです。」（『聖書 聖書協会共同訳』、日本聖書協会、東京、2020 年）。